

村山元英（むらやまもとふさ）

現在、シアトル大学招聘著名教授(経営学部)、千葉大学名誉教授、商学博士。

昭和9年東京下町生れ。米国コロンビア大学を経て、米国シートンホール大学院修了(MBA、昭和37)。ニューヨーク、ロサンゼルス、東京のプライス・ウオーター・ハウス・クーパー社で、国際企業の経営相談業務の実務経験。『企業文化原論』『アジア経営学』『国際経営学原論』『戦略と哲学』など著書多数。

アメリカの母校で教鞭をとり始め、帰国後、上智大学講師を経て、昭和45年千葉大学助教授に就任。その後、同大学教授、大学院教授(修士、博士課程)に就任する。平成12年千葉大学停年退官。平成13年より平成20年まで、中京大学大学院・経営学研究科教授(同大学院・ビジネス・イノベーション研究科教授を併任)。平成20年9月より米国シアトル大学で経営学部から招聘され、学部と大学院で「国際経営学」「企業文化戦略論」「経営管理論」の講義科目を担当。

国際交流基金、日本学術振興会、アジア生産性機構(APO)、日米教育交換協議会(CIEE)などの海外派遣客員教授として、米国のサンフランシスコ大学、ニューヨーク大学、ジョージア州立大学、アジアの国立マラヤ大学、比国ラサール大学、国立インドネシア大学、韓国釜山・東西大学(名誉教授/客員教授)などにて、「国際経営学」と「比較文化論」と「企業文化論」などの研究指導と専門講義をする。

環太平洋学術交流学会(PPC ハワイ大会'84)の国際経営学部で最優秀論文賞を受賞。同学会(PPC バンコック大会'94)においてフェローの称号を受ける。同学会(中米コストリカ大会'08)から「グローバル・リーダーシップ賞」を授賞。『わが家の日米文化合戦』(PHP 出版/その後、講談社版)で新評賞(審査委員:安岡章太郎、加藤秀俊ら)受賞。比較生活文化学会の専門研究分野での学会賞を受賞。

また、THE MARQUIS WHO'S WHO IN THE WORLD'95 に選ばれ、ニューヨーク科学院(New York Academy of Sciences)会員に推薦される。国際経営文化学会会長、経営哲学学会常務理事、多国籍企業研究会理事、日本経営教育学会理事、金子国際交流財団理事、日本篤伝統文化振興財団理事、東京都篤工業会顧問、深川・富岡八幡宮崇敬会特別顧問などを務める。各種の学会・研究会、社会文化団体、実業界、行政などの、間における“架け橋機能”の役割を演じ、多元的な研究交流の融合機会の創始活動(オーガナイザー機能)に貢献する。

国連、日本政府、地方行政の諸機関から各種の研究や委員の委嘱を受ける。日本のみならず、海外でも、むらおこし・まちづくりの研究と行動の実践者。イベント開発(地域活性化論)、コンベンション経営論(幕張メッセやグローバル・ハブ空港などの巨大公共施設経営論、都市集客産業論)、コンファレンス経営論(インセンティブ・ビジネス、会議・研修産業論)、ホスピタリティ社会開発論/ホスピタリティ・マインド研究の新分野を開拓し、「地域経営論」の研究の魁となる。

特に、成田空港紛争問題について平和的な話し合い解決のために、閣議決定の信任委託で地域連絡協議会を創設し会長となり、空港問題公開シンポジウム、賛成派と反対派の同席する円卓会議、空港と地域との共生委員会の道を開き、地域平和の井戸掘りをする(ゲリラに家を焼かれたが)。その延長で、中京大学研究助成の下に中部国際空港の民営化を提言するために、世界のグローバル・ハブ空港の現地研究を展開した。

奈良のシルクロード博覧会、「宇宙と子供たち」の横浜博、「YOU & I」の埼玉博、福岡の「アジア大平洋博」、愛知万博の「自然の叡智」など、自治体や企業文化の特性を的確に把握したコンセプトやテーマ設定を提言する。平成8年度開館した「東京国際フォーラム」の管理運営委員会と記念事業企画委員会などの委員として活躍。

海外では外務省の委託で「ヒューストン国際フェスティバル」日本側実行委員長/文化顧問、スペインのセリビア万博では基本コンセプトづくりに貢献。アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国などでの「ジャパンフェスティバル」や「国際フォーラム」・「国際学会」などのプランナー、コーディネーター、座長を務める。

千葉市とヒューストン市との姉妹都市提携の功績により、ヒューストン名誉市民の称号を授与される。平成12年には、アメリカ経営学会を日本に誘致するために、静岡県“グランシップ”(国際会議場)での、第2回「日米経営会議・静岡大会」を静岡経済界と地方行政体、並びに、日本経営学会などの協力を得て企画実現した。

その他の研究・教育活動と地域社会活動、並びに国際交流活動についての詳細な紹介は、千葉大学村山研究室/学問六縁研究会編『村山元英教授の業績一覧-学問旅情をここに振り返る』(文真堂、平成12年)を参照されたし

趣味は歌舞伎の邦楽。長唄・東友会会員(名古屋で東音会の皆川健先生門下、東京で東音・志村かしわ師匠に教わる)。銀座・交詢社長唄会(故・吉住小紋師匠・小乃紋師匠)の会長を経験。また、古曲・河東節を市川海老蔵の11代目襲名披露の『助六』の舞台に出演し唄った。師匠は山彦千子、私の歌舞伎座出演の日には歌舞伎座に私の芸名・「十寸見東元」の小さな木札が出る。江戸端唄は「美輪お志ん」の芸名を頂戴している。何年も邦楽を勉強しているが、間が合わないで苦勞をしている。シアトルでは大野メリー師匠の率いる「歌舞伎アカデミー」の三味線16丁に囲まれて前代未聞、唄1枚の『勸進帳』をシアトル大学で唄ってもらった。最近では真言宗の在シアトル高野山で、長唄・『時雨西行』を奉納させてもらった。